

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202424		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	ガーデンコート常盤平		
所在地	松戸市常盤平1-13-7		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年7月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年5月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>前年度と同様に、お客様の生活の範囲は施設内のみではなく、施設を取り巻く地域で生活していると感じていただける様に努めることに重きをおいています。地域行事へは必ず参加し、外食や日々の買い物等で出来る限り外に出られる様に努めております。また、職員間で創意工夫・意見交換を行い、日々の生活の中にADLの維持、向上できるような考え、実践していく環境があります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けることへの支援に取り組んでいる。ホームでは外出に力を入れており、日々の散歩の機会を増やしている。地域の祭りや盆踊りなどの行事に参加したり、馴染みの店に外食にも出かけている。記録を工夫しており、個人日誌はケアプランの実施状況がチェックできる書式とし、統一したケアができるようにしている。また、職員には研修の機会を確保しており、ホーム内研修はテーマごと職員が講師となったり、外部講師を招いたり、外部研修に職員を派遣するなど学びを支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間においても考え方が多種多様であるが、安心した生活を送って頂けるよう創意工夫をしている。	ホーム独自の理念をつくり、職員休憩室などに掲示したり、年度初めの職員会議で読み合わせるなど共有を図っている。ユニットのミーティングでは、理念に沿ったケアができるよう話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の避難訓練等、地域活動や地域の祭りにも参加し、地域との交流と理解を深めている。	町会に加入し、避難訓練や清掃などの活動のほか、桜祭りや盆踊りなどの行事に参加している。また、フランドスなどのボランティアや、中学生の職業体験なども受け入れている。今後もさらに地域との交流を深めたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談といった部分でのお問い合わせを頂いている。 また、ランともへの参加を始めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、事業所からの報告の他、参加者から意見をいただいて話し合い、サービス向上のために出来ることから実施している。	地域包括支援センターや協力医療機関、地域の認知症サポーター、薬局、福祉事業所、家族などの参加で、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に開催している。運営やホームの現状報告、身体拘束廃止に関する委員会報告などをしており、参加者から意見をもらっている。	サービスの実際や、自己評価、外部評価などについても、参加者と意見交換することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か疑問があった際には情報交換や意見を聞き、参考にしています。	市の担当課とは連絡を密にしており、電話したり訪問して介護保険上の解釈等を確認することもある。また、市主催の研修に参加したり、認知症サポーターやボランティアを受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止は、お客様にとってより良い介護サービスを提供する為の出发点という考えを事業所内で持っている。また拠点会議にて勉強会を行い、身体拘束を撤廃し、過去例がない。	身体拘束適正化の指針を整備し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠はしているが、利用者が希望すれば一緒に外に出ている。委員会も設置しており、話し合った内容を運営推進会議で報告している。また、職員研修も年2回実施して、身体拘束廃止の共通理解を図っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拠点会議にて様々な例題を提示し、勉強会を行った。日々啓蒙し虐待のないように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	拠点会議にて勉強会を行い、制度に関して学び、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の対応時、初回の面談時、契約時にご説明や不安な点等尋ね、理解、納得を図っている。また、入居後も相談があった場合には丁寧にご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からは運営推進会議の際や、来訪時等に、お客様からは日々の生活の中で意見や要望をお聞きし、内容を精査した上で出来ることから実施しています。	利用者の要望等は日々の関わりのなかで聞き取っており、できることは対応している。家族の意見などは来訪時にできるだけ聞くようにしている。なお、外部の相談窓口などについては、利用者・家族に継続して周知していく事が期待される。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を実施し、意見等聞く機会を設けています。	毎月ユニット会議を実施して、そこで出た意見等は拠点会議(職員会議)で話し合っている。また、3か月に一度の個人面談で、各職員の意向の把握に努めている。管理者は普段でもできる限り現場に入り、職員の話聞くよう心掛け、意見を反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を実施し、意見等聞く機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加しています。また、主任を中心に現場の諸問題を解決していく環境整備に着手しております。拠点会議の他に各ユニット毎に月1で会議を行い、ケアについての疑問点や問題点を相互に出し合い改善していく機会を設けております。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修への参加をし、吸収できる機会を設けています。 職員の募集にも協力体制を講じています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のペースにあわせ、傾聴する事を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	形式にとらわれず、雑談の中から情報を聴取し、関係の構築に取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意見聴取から提案をし、その時々に応じた必要なサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない事を無理強いするのではなく、出来る事をいかに発揮出来るかを重点においてケアしている。また、他者交流も行えるよう、スタッフが常にいる体制にし、スタッフも交えながらより良い関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なかなか面会に出来ないご家族様もいるので、電話等による報告を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少ないですが、以前に近隣に住んでらっしゃったお友達が面会にいらしています。	知人、遠くの親せきや兄弟が訪ねてくる利用者もいる。家族と一緒に外食やお墓参りに出かけることもある。ホームでは、利用者が馴染みの人や場と関係が継続できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や掃除等も皆で協力し合っている光景が毎日見られる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせには対応をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者を中心に担当者会議やケース検討会議で把握するように努めている。また日々の暮らしの中でこんな事があった等申し送り等を通じ、情報の共有に努めている。	職員は日頃よりできる限り、利用者に話しかけるよう心掛けている。なかにはコミュニケーションが難しい利用者もいるが、表情や仕草で思いを把握するようにしている。得た情報は個人日誌に記録するとともにユニット会議で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成担当者を中心に担当者会議やケース検討会議で把握するように努めている。また日々の暮らしの中でこんな事があった等申し送り等を通じ、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画作成担当者を中心に担当者会議やケース検討会議で把握するように努めている。また日々の暮らしの中でこんな事があった等申し送り等を通じ、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、ご本人様やご家族様、主治医や現場職員と話し合い、ケアプラン作成にあたっている。	介護計画は計画作成担当者が毎月モニタリングをおこない、6か月ごとに更新している。見直し時には、医師の意見、本人や家族の要望、職員意見及び日々の記録をもとにアセスメントをして作成している。また、個人日誌にケアの目標を記載し、計画に沿った支援ができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に落としている。その記録を基に、情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能をご利用のお客様との交流を行ったり、ユニットだけではなく、全体でレクリエーションを行ったりしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周囲の公園への散歩や、神社へのお参り、町会でのパトロール等に出向き、交流を促したり等地域交流が出来る環境を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科は往診が可能である。他科受診、ご家族様が通院に行く際は、必要に応じて、施設の様子等情報提供を行うか通院同行するように努めている。	ホームの協力医が月2回往診して、利用者の健康管理をしており、24時間の対応が可能となっている。希望に応じて従来のかかりつけ医を受診する利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模多機能の看護師がいる為、介護職員や事務方と情報の共有化を図り、往診や通院時医師に情報をつなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	希望者に関して定期往診があります。往診が無い日で状況の変化が表れた場合等、報告・相談を密にし、対応に関して協議し悪化防止に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期への変化があった場合、ケアの対応について関係各位を交えて話し合う場を設けベストな対応を行なっています。	重度化や終末期対応の指針があり、契約時に説明して同意を得ている。終末期には家族の希望が当初と変わってくることもあり、看取りについて再確認をしている。看取りの希望があった時には、医師、家族、職員で話し合っており、看取りケアに入っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生した事案は報告書を掲示し情報の共有、対策方法の検討を行っている。備えとしては、手薄になる夜間帯に何かあった場合でも事務方や当直者を立て、対応にあたることにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は夜間想定避難訓練を行った。今冬に消防署を呼び避難訓練を実施します。地域で災害が起きた場合でも、可能な限り受入は可能である。	ホームは日中と夜間を想定して、火災時の避難訓練をおこなっている。自然災害については、マニュアルで説明したり、研修で話し合っている。食料品の備蓄は3日分確保しているが、防災頭巾やヘルメットなどは用意していない。	夜間想定訓練に夜勤専任職員が参加していないので、訓練時間などの工夫をして、参加できるようにすることが望まれる。また、今後は近隣との協力体制を作ることも期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様に対し、馴れ馴れしくならないように、また、冷たい対応を取らないよう声かけや接遇に気をつけ、尊厳を損なわないよう対応している。	利用者は自分の家族と考え、否定的な声掛けにならないよう心掛けている。利用者の呼称は基本「さんづけ」としている。居室に入る時には、必ず断ってから入室するようにするなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のペースや日々の状態の変化に合わせて希望を叶えるよう創意工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの導線上、食事時間と入浴時間は定めているが、その他の時間に関しては、自由に楽しんで頂いたり、お客様ご自身のペースや希望に合わせてゆとりを持たせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整容の援助をしている。また、定期的な訪問整容を入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で一緒に準備、片付けを行っていただき、一緒に昼食をとっており、毎日の日課になっている。	食材は業者から取り寄せ、職員と参加できる利用者が調理しているが、誕生日には利用者の希望に応えたり、レクリエーションでおやつ作りを楽しんでいる。当日のメニューは黒板に掲示し、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社、栄養士が入っていて、カロリー計算等が出来ている献立になっている。その反面、個々の要望にお応え出来る事が困難な場合もある。咀嚼、嚥下の能力をアセスメントし、その方にあつた提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや介助をし口腔ケアを実施している。食前の嚥下体操も実施している。必要な方は訪問歯科で定期的に口腔内の状態確認をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導等困難な方もいるが、成功事例を共有し、出来るだけトイレで排泄をして頂けるようにしている。	ホームでは、日中の排泄はトイレを基本としている。夜間はおむつの利用者も、日中はリハビリパンツにして誘導している。夜間は、一人ひとりに応じてトイレ誘導やポータブルトイレを使用するなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表の記録からデータを採取し、薬に頼らず食事改善や捕食等でコントロールしている。排泄状況は毎日2回必須で申し送りしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	導線上、入浴時間の設定はしているが、毎日入浴できる環境は整えている。拒否の方には、無理強いせず、納得して入浴できるよう支援している。	お風呂は毎日沸かしており、午前と午後に分け最低週2回は入浴できるよう支援している。入りたくないという時は無理強いせず、利用者の意思を尊重している。入浴支援は職員と1対1であり、ゆっくり話をできる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠パターンを把握し、快適に休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、管理者が行っている。往診時、薬剤師も同行し、お客様へ説明している。変更等があれば、ご家族様に連絡し、経過観察をし、状況報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団で行う、少人数で行う、個別に行うの3パターンがあり、その日、その時の状態状況により余暇を楽しまれてる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節、気候にもよるが、近隣の公園へ散歩したり、買い物や外食を行い、気分転換を図っている。	今年度、ホームでは少なくとも週2回以上は散歩に出掛けられるよう取り組んだ。車いす利用者も外出を楽しんでいる。また、2か月に一度は馴染みの店で外食するなど、外に出る機会を作っている。なかには家族と居酒屋などで楽しんでくる利用者もいる。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社の規定により原則事務で一括管理をしているが、買物時は同行する職員に預け、買物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会はないが、本人や家族のご希望で電話をしたり取り次いだりする事は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるように装飾作りをスタッフと共にしている。日中の午前、午後と夜間の掃除、環境整備を行っている。	リビングは清潔に心がけ、定期的に掃除をしている。また、五月人形や雛人形、クリスマスツリーなど季節の飾りは必ず飾っている。利用者は日中リビングでテレビを見たり、体操やカラオケなどのレクリエーションに参加などする自分のペースで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになるスペースはないが、気の合う同士関わりを持ったり、併設の小規模多機能のお客様との交流をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	原則、火災につながるもの持込は禁止しているが、その他の持込品については危険が無ければ原則自由であり、馴染みの物をご持参頂いている。ご本人様の要望に応じ、入居後も必要な品物を購入することも可能である。	利用者は入居時にタンスやテーブル、イスや家族の写真など、大切な物を持ってきている。居室は定期的な清掃やリネン交換などで、居心地よく過ごせるように配慮している。また、居室の入り口には各自の顔写真と名前が書かれた札を掛け、自分の部屋を認識してもらうようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は、バリアフリーの設計である。お客様の安全を確保しながら、自立した生活が送れるようになっている。		

【評価機関】